

## 大規模災害における栄養・食生活支援活動の連携体制と人材育成に関する研究

### ～保健所管理栄養士の役割を考える仲間たちの奮闘～

地域保健総合推進事業は、様々な地域保健活動の担い手が全国規模の視点で、かつ自らの足元の今日的課題を具体的な活動で調査・研究する事業で、いわゆる研究のみに留まらない実践を重視する公衆衛生活動です。

この「大規模災害における栄養・食生活支援活動の連携体制と人材育成に関する研究」事業（分担事業者 久保彰子）は、2年間では到底出来そうもないと思われる様な量と内容の事業をやり遂げたと考えられます。それを可能にしたのは分担事業者のリーダーシップと研究委員ひとり一人の公衆栄養専門家としてのビジョンと強い責任感があったからだと感じました。

平成31年3月に完成した「大規模災害時の栄養・食生活支援活動ガイドライン～その時、自治体職員は何をするか～」は、過去に地域保健総合推進事業で作成されたガイドライン等を改訂する形で作られましたが、保健所や市町村といった行政の管理栄養士だけでなく、防災担当や保健所長はじめ多職種に是非活用いただきたい内容となっています。DHEATやEMIS、受援と支援などの重要な視点が盛り込まれています。職種を超えて一緒にご覧いただければ保健所管理栄養士のメッセージを受け取ってもらえるものと思います。

このガイドラインをもとに、本年度はアクションカードを作成し、ケースメソッドの教材を整え、さらにこの教材で演習(女子栄養大学 武見ゆかり教授)を行うなど精力的な研究班でした。これらの成果を各地で活用し、その地域に則したアクションカードの作成や平常時にできる具体的な準備、関係者の研修等につなげていただければと考えます。使う人が作る人だからできた、といえるものになったと思います。

助言者のひとりとして、この事業に参加できたことに感謝します。今後も保健所管理栄養士のご活躍に期待します。

2020年2月

助言者

愛知県一宮保健所 所長

(元 全国保健所長会 会長)

澁谷 いづみ